

第12期 2022（令和4）年度

社会福祉法人もやい聖友会 事業計画

第12期 社会福祉法人もやい聖友会 事業計画

<ごあいさつ>

もやい聖友会も創設から10年を越え、「よちよち歩きのヒヨコです」とも言えなくなりました。この10年間は、地域の方々に支えられスタッフと共に『おたがいさまで笑顔がいっぱい』を基本理念として「つながる」をテーマに、地域のさまざまな活動をして参りました。具体的には、地域福祉のプラットフォームとして、居場所、やりがい、相談所のような場を設け、地域の人々の顔の見える関係づくりを目標としたコミュニティの場としての機能や役割を果たしています。

2005年（平成7年）の介護保険法の改正で初めて「地域包括ケアシステム」という用語が使われ、目標の2025年が目前に迫って来ています。超高齢化が進行、少子化・多死化により人口も減少しつつある中、そして同時に、地域・家庭・職場という生活領域における支え合いの基盤も弱まってきています。老々世帯、独居世帯のみならず、地域から孤立し、必要な社会的資源につながらない人は少なくありません。

地域には、相互扶助や家族同士での「支え合い」「おたがいさま」が、もともと存在していました。しかし、高度経済成長の中、それに代わるものとして、医療保険や介護保険をはじめとする、きめ細やかな社会保障制度などが充実してきました。しかし、その結果、高齢者、障がい者、子どもなどの対象者、分野ごとの、管理しやすい縦割りの公的支援制度、そして、「支え手」と「受け手」という関係性が生まれました。地域では、支え合いの基盤や人と人との繋がりが希薄化し、今の地域課題につながっています。

今、地域課題の解決のために、「自助」「互助」の概念や範囲、役割に新しい形が求められていると言われています。幸いにも、北九州市は、高齢先進都市として施設や公的支援制度も充実しており、また、各地域には「地域共生社会」を目指した「我が事・丸ごと」の地域づくり活動をしている地域団体やボランティア、そして様々なコミュニティが存在しています。

これからも、社会福祉法人もやい聖友会は、今ある資源を大切に施設、事業所の運営だけでなく、地域のみなさま、職員とともに、さまざまな地域活動を通して、

「医療、福祉、そしてまちが一体となった、
誰ひとりも孤立しない安全安心な
次世代を育てられる地域共生社会を目指して」
未来の子ども達のために頑張ってまいります。

社会福祉法人もやい聖友会
理事長 権頭喜美恵

1. 法人理念

『おたがいさまで笑顔がいっぱい』

2. 今期の目標

- ◎利用者やその家族が、在宅、施設共に、住み慣れた地域や社会の中で、地域住民として健康で豊かな生活を送っていただけること
- ◎医療、福祉、地域との連携をはかり、誰ひとりも孤立しない地域づくりの参加
- ◎次世代を育てられる地域共生社会を目指した活動
- ◎災害、感染症などリスクに対して、職員一丸となり安全対策を図る。
- ◎北九州市オレンジプラン推進のための本人発信の支援

I：利用者にとって

- ①誰もが「地域住民」「社会の一員」として笑顔で生きるお手伝い

II：地域にとって

- ①地域の人が地域の人を支えていける地域共生社会のために、人と人、人と地域を繋ぐ活動
- ②次世代育成を考えた「生きるを繋ぐ」活動
- ③発信の場としてのコミュニティづくり

III：法人にとって

- ①健康経営の推進による福祉現場のイメージアップ
- ②さらなるDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進による組織強化
- ③人材の確保と育成
- ④事業所の効率化のための機能分化と連携

3. 運営事業

(1) 介護保険事業

特別養護老人ホーム

ケアプラザ倶楽部雪月花（29床）

銀杏庵穴生倶楽部（120床）

短期入所生活介護

短期入所生活介護 円（10床）

短期入所生活介護 ゆい（10床）

認知症共同生活介護

グループホーム蓬萊（18室）

小規模多機能共同生活介護

喫茶去庵（25名登録）

(2) 保育事業

北九州認可小規模保育事業所

もやいのおうち保育園（定員 19 名）

華里おひさま保育園（定員 19 名）

事業所内保育おひさま保育園

(3) 障がい福祉事業

障がい児放課後等デイサービス

もやいのえんがわ（定員 1 日 10 名）

未就学児児童発達支援事業所

もやいのえんがわ（定員 1 日 10 名）

就労継続支援事業所 A 型

MOYAI ステーションねむのき（定員 1 日 10 名）

(4) その他の事業

ふれあい村竹末 見守り事業

MOYAI ステーション 96cafe（多世代交流サロン コミュニティカフェ）

4. 重点目標

(1) 法人運営基盤の安定

① 事業収支±0

- ・事業所内保育「おひさま保育園」の閉園（2004年4月開設）
- ・利用者の食事料金や納入業者（ゼロクック、ナリコマ）の見直し
- ・光熱水費、印刷コストの削減（ディーコープ利用）

② 会計、経理業務の改善

- ・事業所ごとの試算表の定期的なチェック

③ 法令遵守

④ リスク管理

デジタルデータの増える中でのサイバー攻撃に備えた職員教育やセキュリティの徹底

⑤ DXの推進による組織強化と業務の効率化

- ・サイボウズ、メールワイズの活用
- ・記録のデジタルデータ化
- ・ラムロックの見守りキューブの導入

⑥ ワークライフバランスを考えた人材の確保と育成

- ・駐車場の確保（2022年3月～日鉄興和不動産所有地に30台）
- ・未就学児子育て世帯職員への支援
- ・健康経営優良法人の更新認定に向けての準備
- ・健康宣言ふくおかの実践
- ・介護応援宣言への登録とその実践
- ・出会い応援団体への登録とその実践

- ・子育て応援宣言への登録とその実践
 - ・特定技能実習生の生活支援（フィリピン、ベトナム）
- (2) 大規模災害に備えた防災・減災
- ・事業継続計画の策定、設備・備品の見直し
 - ・管理・北九州市の福祉避難所としての登録と機能のための整備
- (3) 地域とのつながり
- 引野、穴生、竹末若葉、永犬丸、担当者を中心にそれぞれの繋がり構築
 - ・地域活動のお手伝い、地域の健康、コミュニティや場の提供
 - ・地域活動への参加（防犯パトロール、神社や市民センターの行事、連絡調整会議等）
- (4) 今後の事業展開の検討・準備
- ①健康チェック（地域の方々の未病予防にむけた取り組み）
 - ②银杏庵近辺でのサロン（黒崎 MOYAI ステーション 96cafe と同じような場）
 - ③『もやいDEあるく』（通所介護）＋シニア向けフィットネスジム
 - ④黒崎 MOYAI ステーション 96cafe の地域貢献事業の運営を株⇒もやいで。
 - ⑤障がい児放課後等デイサービス事業「もやいのえんがわ」を雪月花3階に移設
 - ⑥特養の「雪月花」でオレンジカフェを開催や、認知症に特化した相談窓口を設置するなど、银杏庵とはまた違った特徴ある施設とする。
 - ⑦「もやいのえんがわ」跡地に、子育て支援センター（相談、訪問、買い物、配食など）

5. 各部署の実施計画

- (1) 理事会（5月下旬：決算、9月中旬：補正予算、3月上旬：予算）
評議会（6月中旬：決算、10月上旬：補正予算、3月下旬：予算）
- (2) 経営・管理者会議（定例月1回の開催）
- ① 事業経営安定化のための経営分析
 - ② コンプライアンスのための各事業の定期的な確認
 - ③ 人員の確保と適正な配置
 - ④ 施設・設備の修繕に関する実施スケジュール及び資金計画
 - ⑤ 理念や運営方針共有のための理事長研修
- (3) 主任会議
- ① 信用を損なうことのない運営
 - ・ 各種法令や運営基準等に対する遵守度の確認とそのための職員教育
 - ・ 法人及び各事業の運営状況等の積極的な情報の開示
 - ② サービスの質の管理
 - ・ 「笑顔」と「あいさつ」を基本としたサービスの徹底
 - ・ サービスに関する各種マニュアルの見直しと提供サービスの評価
 - ・ 事故や苦情に対する迅速かつ丁寧な対応
 - ③ 人材育成
 - ・ 全事業所の資格チーム毎の勉強会の開催（PT、看護師、相談員、保育士など）

- ・ 研修計画の作成と実施
- ・ 人事考課に基づいた職員個々の育成
- ・ 教育実習、ボランティアの積極的な受け入れ
- ・ 資格取得のための支援

④ リスクマネジメント

- ・ 接遇、事故防止、苦情等に対するリスク回避のための研修
- ・ 感染症の発生、蔓延予防のための発生状況の把握と予防策の作成、
- ・ 職員への研修

(4) 介護老人福祉施設

① 目標稼働 稼働率 98.0%

② 空床発生時の対応

- ・ 空床発生時には、臨機応変に短期入所として活用
- ・ 利用申込者の状態把握(実調)を相談員により毎月 5 件行い、空床発生から 1 週間を目安に新規受け入れを行えるようにする

③ 多職種連携の強化

- ・ 職種、部署、職員間の共通理解を形成し、多職種協働によるサービスを提供し、看取りへの理解や積極的な受け入れ体制を構築
- ・ 施設サービス計画及び栄養ケア計画等、多職種協働による形成、カンファレンス(アセスメント、モニタリング)の充実

④ ローコストオペレーション

- ・ 業務の見直し、マニュアル化による無駄な動きの整理
- ・ 物品関係の実績を毎月、評価・検証を各委員会の担当レベルにて行う
- ・ サービスに関する物品のコストパフォーマンス面での見直し

⑤ フィリピン、ベトナムをはじめとした特定技能実習生の受入れと支援

- ・ 介護の現場の中の生活支援での人手不足の削減
- ・ 文化的背景の異なる職員がいることで相互理解のための思いやりをもった職場への変革、多文化共生への理解

(5) 短期入所生活介護

① 目標稼働 稼働率 80.0%

② 新規顧客の開発とリピーターの継続利用

在宅高齢者であることを踏まえ、お客様のご家庭での状況を理解し、在宅生活が長く送ることが出来るサービスを提供する

③ ローコストオペレーション

業務の見直し、マニュアル化による無駄な動きの整理

(6) 社会貢献事業

① 地域包括ケアの構築推進に向けて

医療・介護・予防だけでなく、それらを支える土台となる本人や家族の選択と心構

え、そして、地域における生活の基盤となる「住まい」「生活支援」のシステムを構築していくためのまちづくり活動への参加をします。事業所を開設している洞南地区での地域の活動のお手伝いを積極的に行います。「地域まるごとサ高住」を目指します。

②地域福祉の核としての存在

高齢者だけでなく障がい者や子育て支援など、地域の人にとって相談できる「地域包括ケアセンター」や「まちの保健室」「もやい通りマルシェ」、子ども食堂である「みんなの食堂もやい」の運営や、施設の貸し出しを通して、地域に居住する子どもから高齢者までの居場所づくりを行い、コミュニティの場として機能できるような運営を行います。

施設や人材を地域のために活用していただけるように努めます。また、子育て支援を通して次世代の育成にも力を入れます。

③地域の活性化

北九州は、政令市の中でも高齢化率（65歳以上人口）がトップです。

①や②を実践することによって、住みよいまちを目指し地域の価値をあげることによって地域の活性化につなげていけるよう率先して考えていきます。

④地域貢献活動への支援

職員が地域の行事や運営の手伝い・ボランティア等を行った場合、職場と離れたところでも、地域貢献に積極的に取り組もうとする職員を応援します。

社会福祉法人が、施設などの事業所運営だけを行っていても、公益性は希薄化し営利法人となら変わりがなくなってしまいます。新たな公益性を示すための取り組みをすべきであり、それはその地域で必要とされることであり、社会情勢にも合致した社会貢献事業を考えていかななくてはならないと考えています。

<今後も継続していく地域貢献活動>

①もやいを拠点とした活動

- ・洞南地区地域包括ケア推進会議 ⇒ 地域連携推進会議
⇒ 武内和久氏を囲む勉強会
- ・八幡西繋がるまちづくり大発会 ⇒ 2022年度 計画
- ・施設の貸し出し ⇒ 約50団体が利用
- ・カフェ楓の運営
- ・地域コミュニティ FM ラジオのスタジオの運営
- ・お月見茶会 ⇒ 2022年度 計画
- ・健康教室の開催 ⇒ 他団体とのコラボ
- ・サービス付き高齢者向け住宅での「ひとつ屋根プロジェクト」の支援
- ・まちかど介護相談室（高齢者福祉事業協会）
- ・MOYAI ステーションねむのき（まちの保健室）
- ・気になるこどもの相談カフェ

(北九州市、NPO 法人地域医療連携団体 Needs との協働事業)

- ・みんなの食堂もやい(銀杏庵)、 96cafe もえもえキッチン(黒崎)
(子ども食堂ネットワーク加盟団体北九州市こども家庭局)
- ・赤ちゃんの駅 登録(銀杏庵・96cafe)
- ・福祉避難所 登録(銀杏庵、雪月花)
- ・もやいメディケアシネマ(医療や福祉を題材とした)映画上映会
- ・もやい通りマルシェ(毎月第三土曜日 8年目)

②地域を拠点とした活動

- ・緑ヶ丘第二幼稚園、竹末小学校など地域の学校との交流活動
- ・洞南肆地区山笠のしぶき作り
- ・洞南肆地区山笠の休憩場所の提供
- ・モバイル屋台(専門職による地域の中での健康相談や介護相談)
- ・竹末小学校などでのキャリア教育
- ・地域のまち美化清掃活動
(鉄王西公園、相生公園、銀杏庵沿道の花、雪月花沿道、竹末公園)
- ・龍王神社でのお花見茶会お手伝い⇒中止
- ・龍王神社の注連縄づくりのお手伝い⇒中止
- ・地域との連絡調整会議への参加
担当者(①引野地区、②穴生地区、③竹末若葉地区)
- ・黒崎まちなかオレンジカフェ
- ・黒崎まちゼミ
- ・黒崎まちなか探検隊
- ・西日本国際福祉機器展への出展と繋活セミナー開催
- ・出張健康チェックや健康・介護相談
(オレンジカフェ、ふれあい村竹末、サロン等)
- ・ボルクバレット北九州応援団(職員、入居者、利用者とともに)
- ・落語家の橘屋文太さん応援団